

人権集会

『物も言いようで、角が立つ』

講話 (校長)



以前いた学校でのできごとです。担任の先生が出張で、2年生の授業に行きました。その時間は国語で、「漢字ドリル21と22をノートに」と書いてあったので、「じゃあ、漢字ノートに書き始めて」と話しました。すると、「違うよ」「ノートに書く前に、ドリルに書くんだから」「いつもそうやっているから」と何人かの子が怒ったような、強い口調で言い始めました。それを聞いて、「教えてくれてありがとうございます」とは言ったものの、気持ちはずっきりしませんでした。そして、「いつもこんな言い方をしている、けんかにならないかな」と心配になりました。



このような言い方に対することわざに『物も言いようで、角が立つ』というものがあります。意味は、「相手に何かを伝えるとき、同じ内容でも言い方で相手を傷つけたりけんかになったりすることがある」ということです。では、どのような「物の言いよう」が大切なのでしょう。難しそうですが、実は簡単です。一言で言えば「思いやり」です。「こんなこと言われたら悲しいな」「こんな言い方されたらいやな気持ちになるな」と、相手の

『思いやり』



気持ちを思いやって、話す内容や言い方に気をつければいいのです。話は一人ではできません。相手があります。お互いに「思いやり」をもちあって話をすれば、だれもが気持ちよく生活することができます。

これに似た説明がさっきありました。そうです。社本先生が話してくれた『人権』についての説明です。「まわりの人のことも大切に」「お互いに認め合う」。これが『人権』を守るということでした。人権を守るのは、難しいことではありません。さっき話した「思いやりをもった話し方」、そして去年話した「しらんぷりマナー」、その前に話した「おもいやり算」など、いつもお互いに相手のことを思いやりながら話したり行動したりしてください。

『人権』

「まわりの人のことも大切に」

「お互いに認め合う」



今年の人権週間のテーマは、『考えよう相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心』です。いつも相手の気持ちを考え、認め合ってみんなが楽しい十四山東部小学校、そしてみんなが楽しい世の中にしていきたいと思います。

人権作文の発表

「今ぼくができること」 5年 君



ぼくたち・わたしたちのメッセージ

各学級で作った、人権を考える合い言葉を発表しました。

1年「みんなそれぞれらがうけど
なかみはみんなやさしいよ」

2年「心の花をさかそうよ
かれたらそこで けんかがおこる」



3年「ありがとう 心のおくが あたたまる」

4年「みんなに届けよう おくり物
笑顔という名の プレゼント」



5年「らがうから 仲良くしよう
知ること 支えること みつけること」

6年「あなたの手 誰でも救える まほうの手」

人権マスコット

まもるくん



あゆみちゃん

